

第2回 臨床研修制度のあり方等に関する検討会
(2008年10月16日)

臨床研修に関するヒアリング

札幌医科大学学長・理事長 今井 浩三

札幌医科大学の理念

最高レベルの医科大学を目指します

- 人間性豊かな医療人の育成に努めます
- 道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
- 国際的・先端的な研究を進めます

配分総額

教員1人あたり

	大学	千円
1	東京大	6,714
2	東京工業大	5,338
3	京都大	5,062
4	大阪大	4,859
5	東北大	4,471
6	名古屋大	4,240
7	東京医科歯科大	3,601
8	北海道大	3,445
9	九州大	3,185
10	豊橋技術科学大	2,719
11	東京都立大	2,647
12	京都府立医科大	2,510
13	札幌医科大	2,156
14	横浜市立大	2,078
15	福井医科大	2,075
16	浜松医科大	1,885
17	滋賀医科大	1,875
18	広島大	1,812
19	聖路加看護大	1,775
20	神戸大	1,764

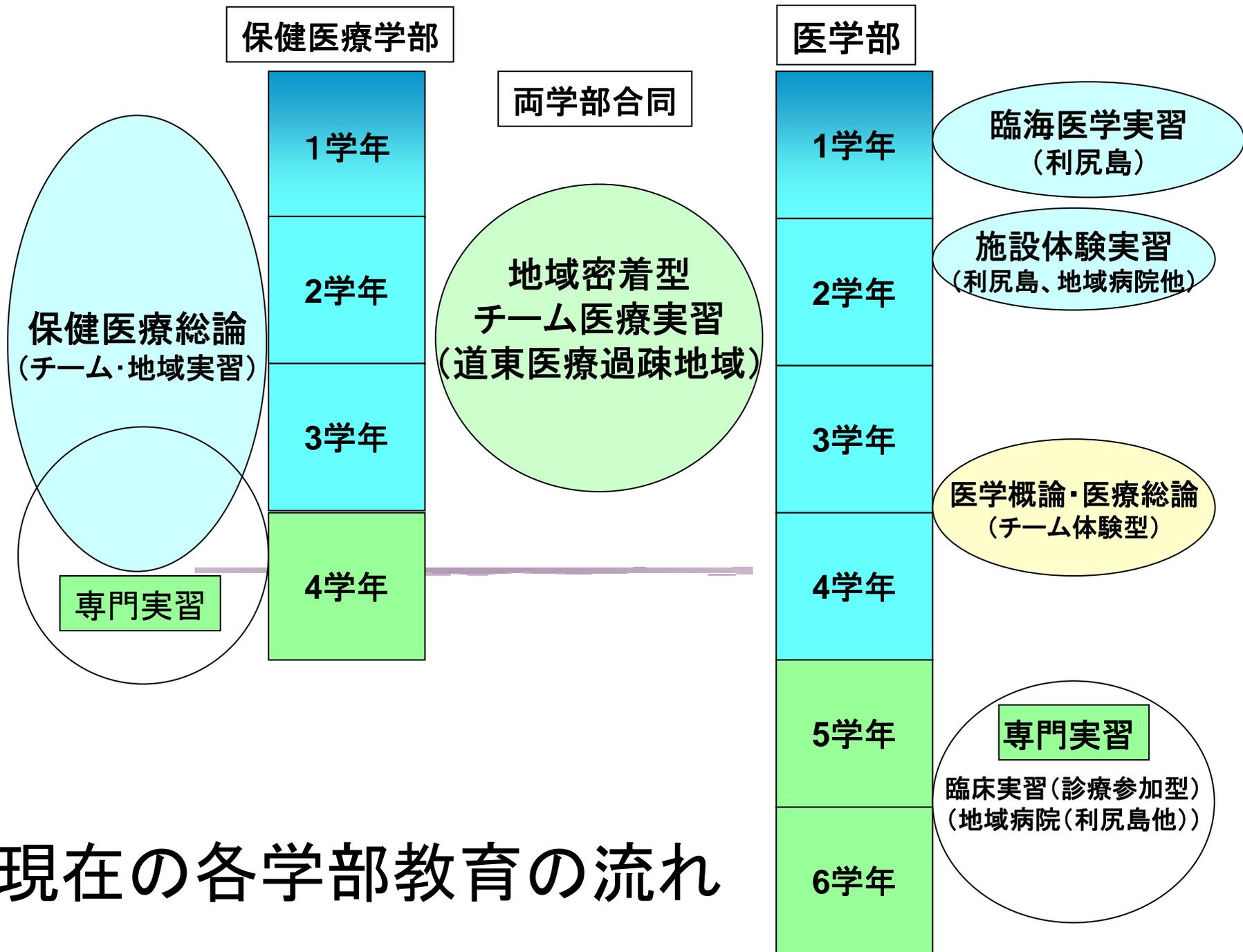
配分総額

	大学
1	東京大
2	東京工業大
3	京都大
4	大阪大
5	東北大
6	名古屋大
7	東京医科歯科大
8	北海道大
9	九州大
10	豊橋技術科学大
11	東京都立大
12	京都府立医科大
13	札幌医科大
14	横浜市立大
15	福井医科大
16	浜松医科大
17	滋賀医科大
18	広島大
19	聖路加看護大
20	神戸大
21	徳島大
22	熊本大
23	東京農工大
24	筑波大
25	富山医科薬科大
26	九州芸術工科大
27	岐阜大
28	群馬大
29	岡山大
30	豊田工業大
31	鹿嶋看護大
32	長崎大
33	千葉大
34	長岡技術科学大
35	松本歯科大

学	千円
学	922
医科大	917
大	913
大	903
大	888
大	886
	885
大	879
	877
大	842
	840
	838
大	837
大	828
	823
	822
看護大	810
大	791
立医科大	783
大	782
	772
大	763
医科大	759
大	716
大	713
	702
	692
	685
	680
	673
大	672
看護大	657
大	652
大	649
科大	641

文部科学省GPの採択状況(H19年度まで)

	対象	テーマ	結果
現代GP	両学部 大学院	・地域密着型チーム医療実習 ・医療研究者・地域医療従事者 支援型知財教育	採択 採択
特色GP	両学部	・学部一貫教育による地域医療の マインドの形成	採択
橋渡し 研究支援	臨床への橋渡し	・オール北海道先進医学・医療拠 点形成	採択
がんプロ	大学院	・北海道の総合力を生かすプロ養 成プログラム	採択



現在の各学部教育の流れ

地域密着型チーム医療実習

4学科合同

: 医学科、看護学科、理学療法学科、作業療法学科

地域滞在型

: 北海道東部(別海町、中標津町、釧路市)

チーム医療実習

: 地区踏査(第2学年3月)

参加型実習・健康教育セミナー(第3学年8月)

市立根室病院

内科医不在の恐れ

4月から 旭医大が引き揚げ

【根室】市立根室病院（羽根田俊院長、百九十丸床）で内科に常勤する

受診や入院を余儀なくされるほか、救急患者にも影響が出る。

したため、四月からは派遣できなくなったと市に通知。もう一人の医師も退職する意向だ。

に内科を持つ民間病院や診療所が十カ所あるが、規模が小さく、外来、救急患者の受け入れには限界がある。民間病院の計

四人の医師が四月から不在となる恐れがあることが三十日、分かった。旭川医大が内科への派遣を三月末で打ち切るなどするため、市は道などに

市立病院は内科、外科、小児科など十七診療科がある総合病院で、道の地域センター病院に指定されている。常勤医師は現在十一人。

市立病院では、年間の外来患者延べ十七万六千人のうち三割、入院患者延べ五万三千人の五割も内科が占める（いずれも二〇〇五年度）。また、

は精神疾患の患者向け。市立病院の内科医師が不在となれば、現在、内科系疾患で市立病院に入院している約四十人の患者や通院患者の多くが、釧路市などの病院で治療を受けざるを得なくなる見

新たな医師派遣を要請している。内科医を確保できなければ、年間延べ五万人を超える外来患者や入院患者の多くは百二十

内科の医師四人のうち三人を派遣している旭医大は、新人医師に二年度の研修を義務付ける臨床研修制度の影響で同大学

市内には市立病院以外

通し。このため根室市は

医師引き揚げ拡大

道内の各病院で医師を派遣している北大、札幌大、旭大の3大学が最の病から続く医師を引き揚げる。一旦、新たに派遣された医師の引き揚げや離職の懸念が、医師の引き揚げを減らさず、診療体制を維持する必要がある。2004年度、新医師臨床研修を義務付けた制度導入により、大内の医師数が大幅減っているのが懸念の理由で、四大学の医師数を今年、医師を引き揚げる空白的な拡大する様を見せたい。

(関連記事37面)

道内地域病院

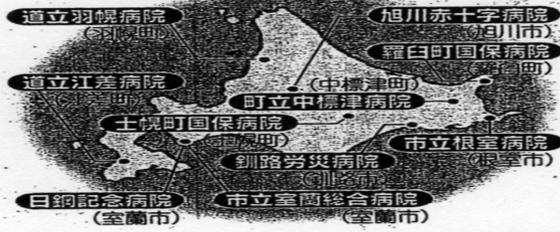
臨床研修制度は、新医師が研修の履修を自由選択できるようにしたことから、医師は真面目な方々や有良医師を確保する傾向が強まり、地方大学医学科からの医師流出が激しくなっている。このため、春の異動期にむき、大学が地方病院に派遣している医師を引き揚げる事態が繰り返されている。道内3大学では、4年以内の期間で道

新たに5カ所診療の縮小も

内見の島体病の四分一に当たる三大病院ら八七人の医師の派遣打ち切りを引き起こし、その後も医師を引揚げるという病院が多い。今年春の医師引き揚げに、地域医療の機軸的担手がなくなるのは懸念。

新研修制度で大学人材不足

今年になって医師引き揚げや診療体制縮小の恐れが出ている病院(2月1日現在)



新たな医師の引き揚げ 川平十字院(後藤院)立寄総合病院(近藤)四八床。このほか、陸小児科医大派遣を再開したほか、旭長七京大士院、市立根室院(羽根)として、今年から、道内中標津の町平院、早十九床では、人減らすため、同院は、早十九床、留置院、切を減らしている旭川院、留置院を確保し、留置院(森山)院、留置院の派遣を、留置院を確保し、留置院の道立羽幌院、大新たに外科の常駐、派遣の一人は十床確保(奥雅院)早十床、二人も三月末引き揚げの勤務を確保している。

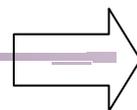
臨床研修制度 大学医部を確保する中で、新医師は卒業前卒業し、医師免許最速で新入時に出身大学の履修を完了する医師の研修は、大学医部で研修が多く、専門外を知らず、幅広い省の指定を受け病院で、勤めて、基礎的な能力を欠けるなどの弊害が、1年以内の研修期間、2年があった。このため、さまざまな病状見本資料、購入資料、地域に付与できる能力を高め、自らの保健・医療を研修する。従来、研修が専念された。

市立根室病院について

- (1) 平成18年3月末時点で常勤医師17名体制(うち旭川医大から15名派遣)
- (2) 平成18年4月以降、常勤医師5名引き上げにより常勤医師12名体制
(北大：産婦人科、旭川医大：消化器内科、心臓血管外科)
- (3) 平成18年9～10月で、更に引き上げが表面化(循環器内科(常勤)ほか、非常勤医師等)

○平成18年11月現在

診療科目	常勤医師	非常勤医師
内科	4名	1名
外科	2名	
整形外科	2名	1名
小児科	1名	1名
泌尿器科	1名	
眼科	1名	
産婦人科・皮膚科・ 耳鼻咽喉科・麻酔科		各1名
計	11名	7名
研修医	1名(1ヶ月交替)	



○平成19年4月見通し

常勤医師	非常勤医師
	1名
1名	1名
1名	
1名	
	各1名 (麻酔科を除く)
3名	5名
1名(1ヶ月交替)	

※網掛けは、平成19年4月から派遣中止が見込まれる医師

臨床研修医の推移:札幌医科大学

1 初期臨床研修医の推移

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
Aコース	32人	28人	13人	8人	14人
Bコース	38人	30人	35人	21人	29人
Cコース	—	—	2人	7人	4人
計 (札幌大卒者)	70人 (60人)	58人 (53人)	50人 (40人)	36人 (33人)	47人 (39人)

2 後期臨床研修医の推移

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
参加者数 (札幌大卒者)	106人	97人	97人 (80人)	77人 (64人)	—	—	78人 (60人)	77人 (63人)	71人 (58人)

※ H13までの参加者数のうち札幌大卒者は不明。

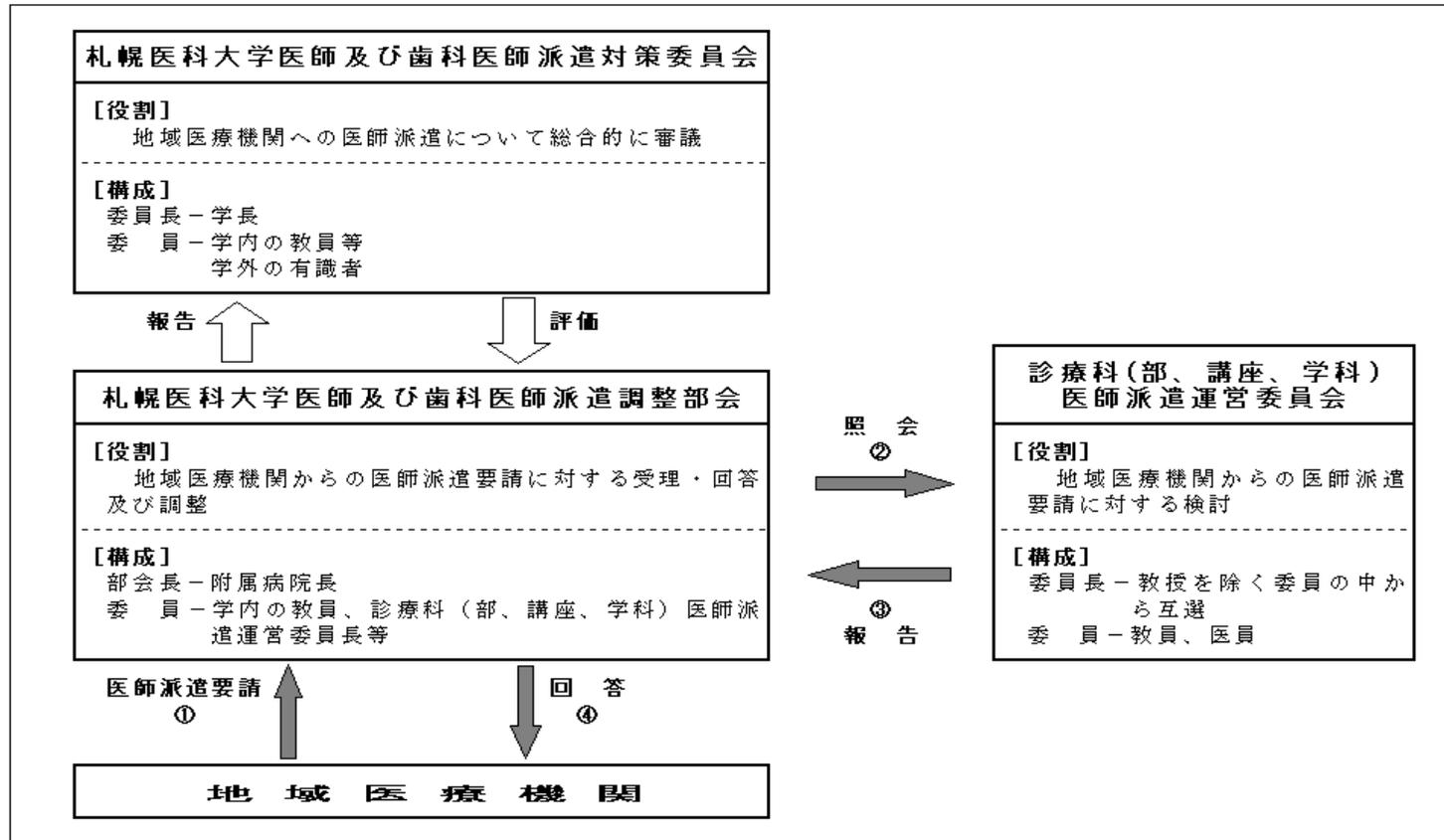
札幌医科大学医師及び歯科医師派遣システム

- 札幌医科大学は、優れた医療人の育成に努めるとともに、教員等の本学所属の医師を地域医療機関に派遣し、北海道の地域医療に貢献。
-
- 平成16年度から、医師派遣要請に対する窓口を一元化した医師派遣制度を実施。

札幌医科大学医師及び歯科医師派遣システム

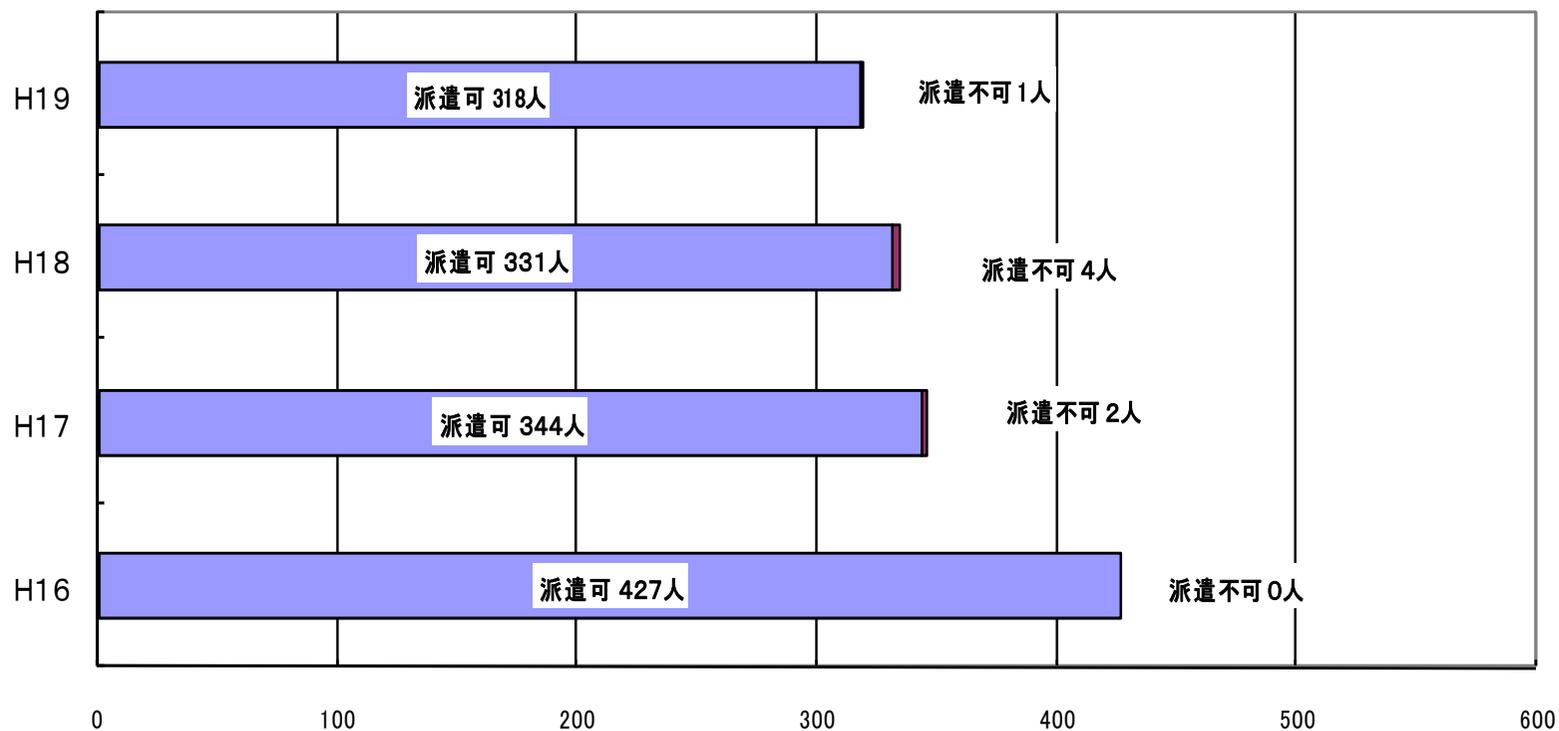
- この制度は、医師派遣の透明性を確保し、円滑な対応を行うため、「札幌医科大学医師及び歯科医師派遣対策委員会」の下に、「調整部会」を設置し、すべての派遣要請の窓口をここに一元化するとともに、派遣の可否については、各診療科ごとに設置する「医師派遣運営委員会」の検討結果を調整部会において調整し、地域医療機関に回答をしている。

札幌医科大学医師及び歯科医師派遣システムの概要図



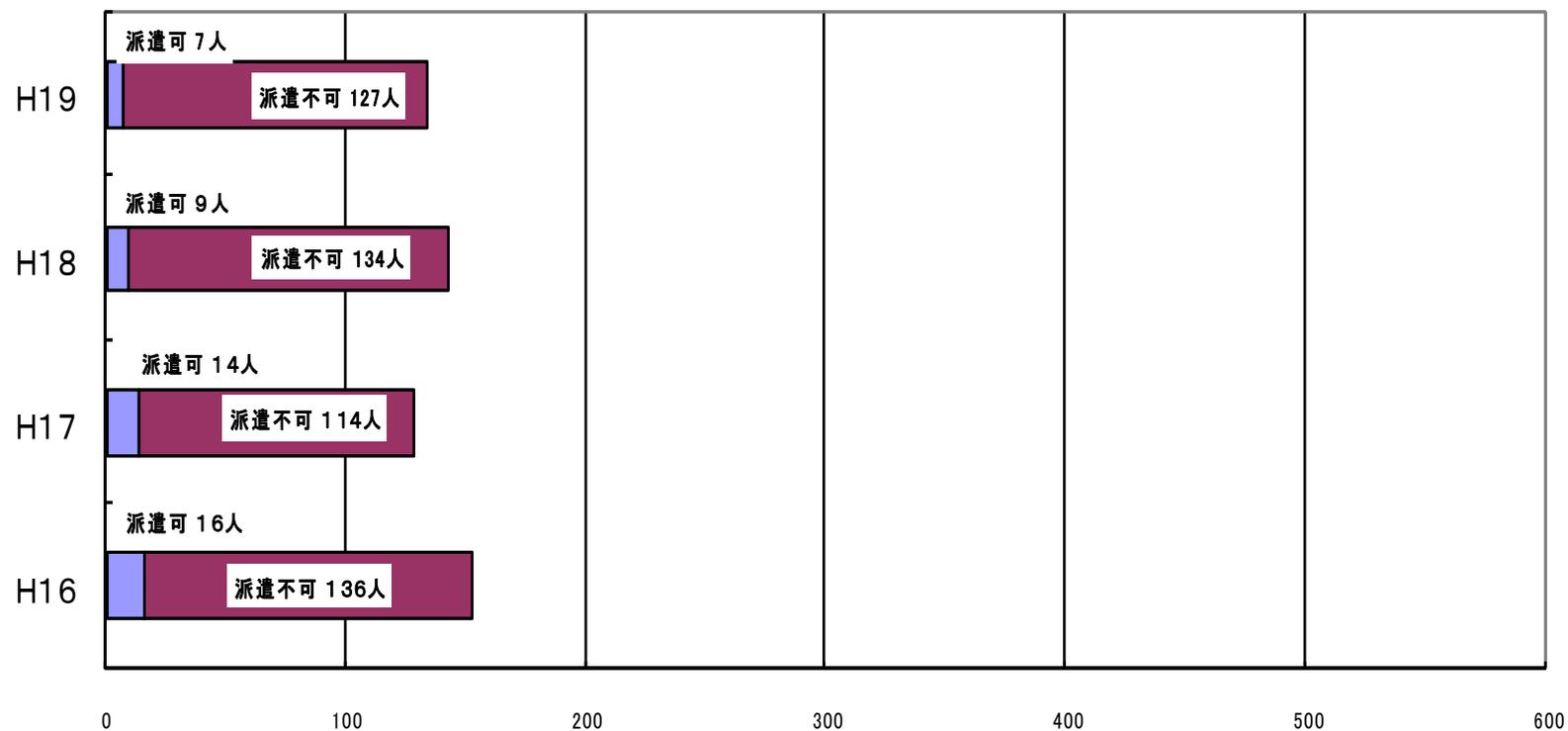
1 常勤医派遣要請に対する検討結果(各年度実績)

派遣検討結果(継続:実人員)



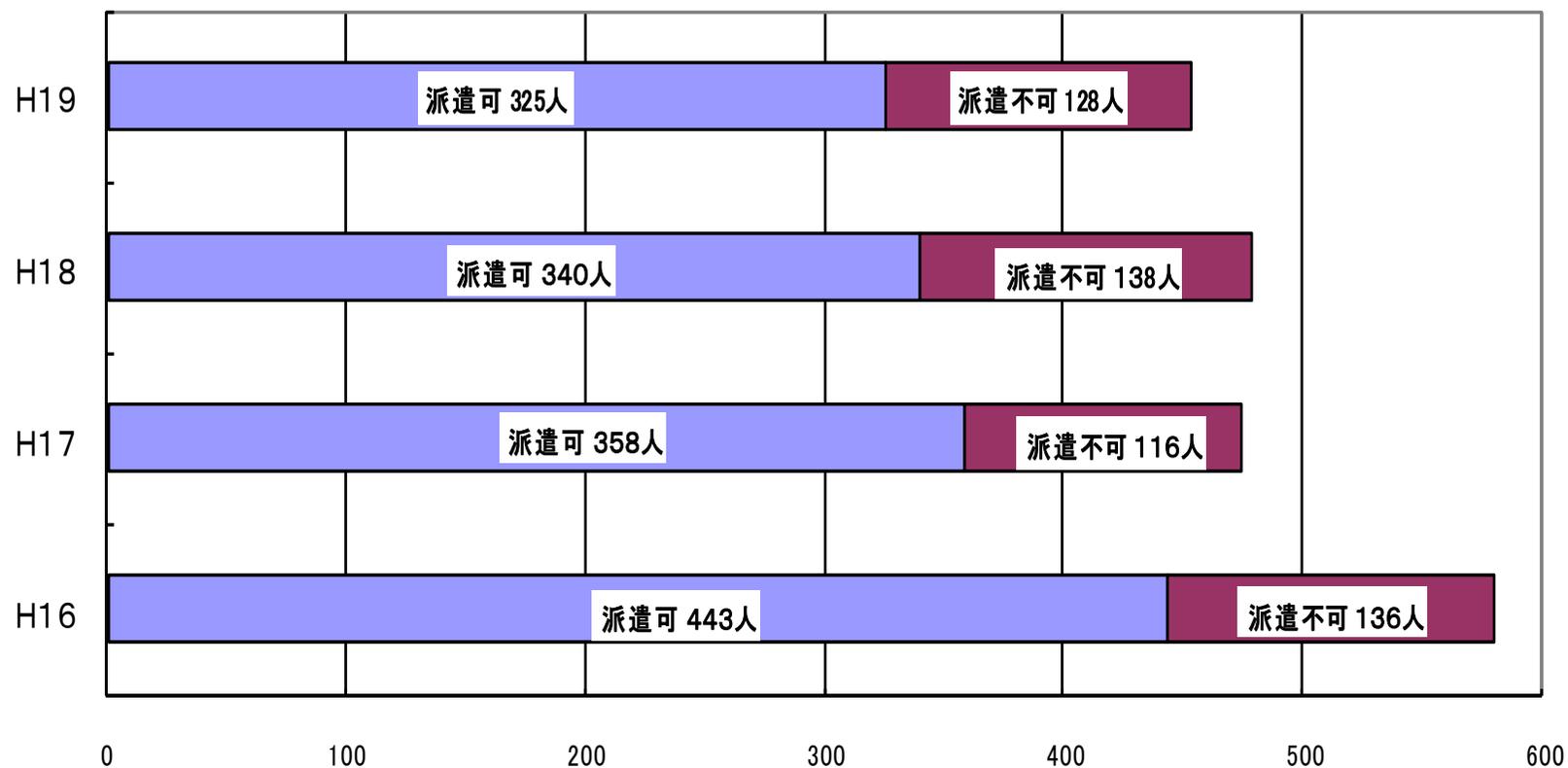
1 常勤医派遣要請に対する検討結果(各年度実績)

派遣検討結果(新規:実人員)

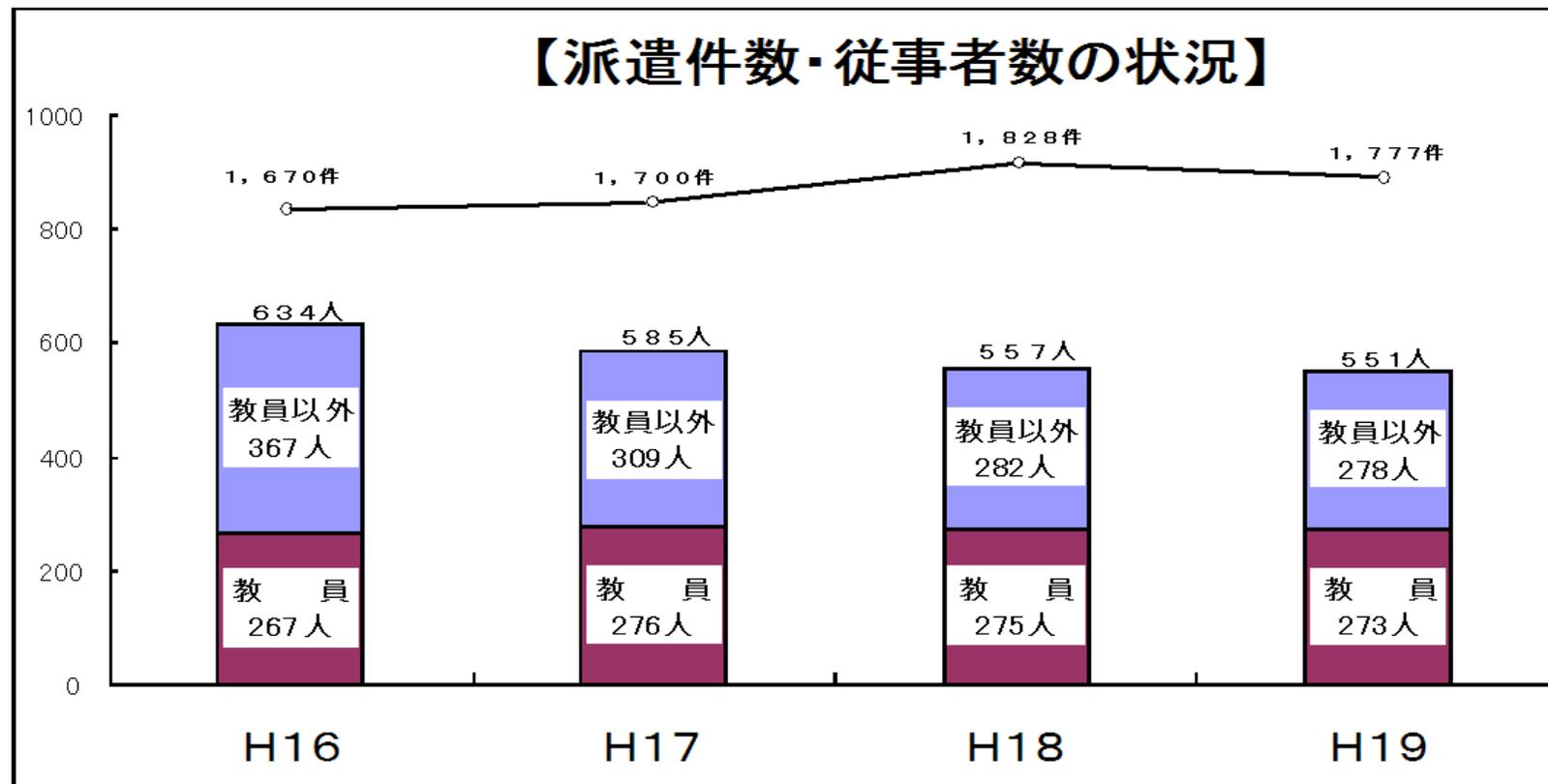


1 常勤医派遣要請に対する検討結果(各年度実績)

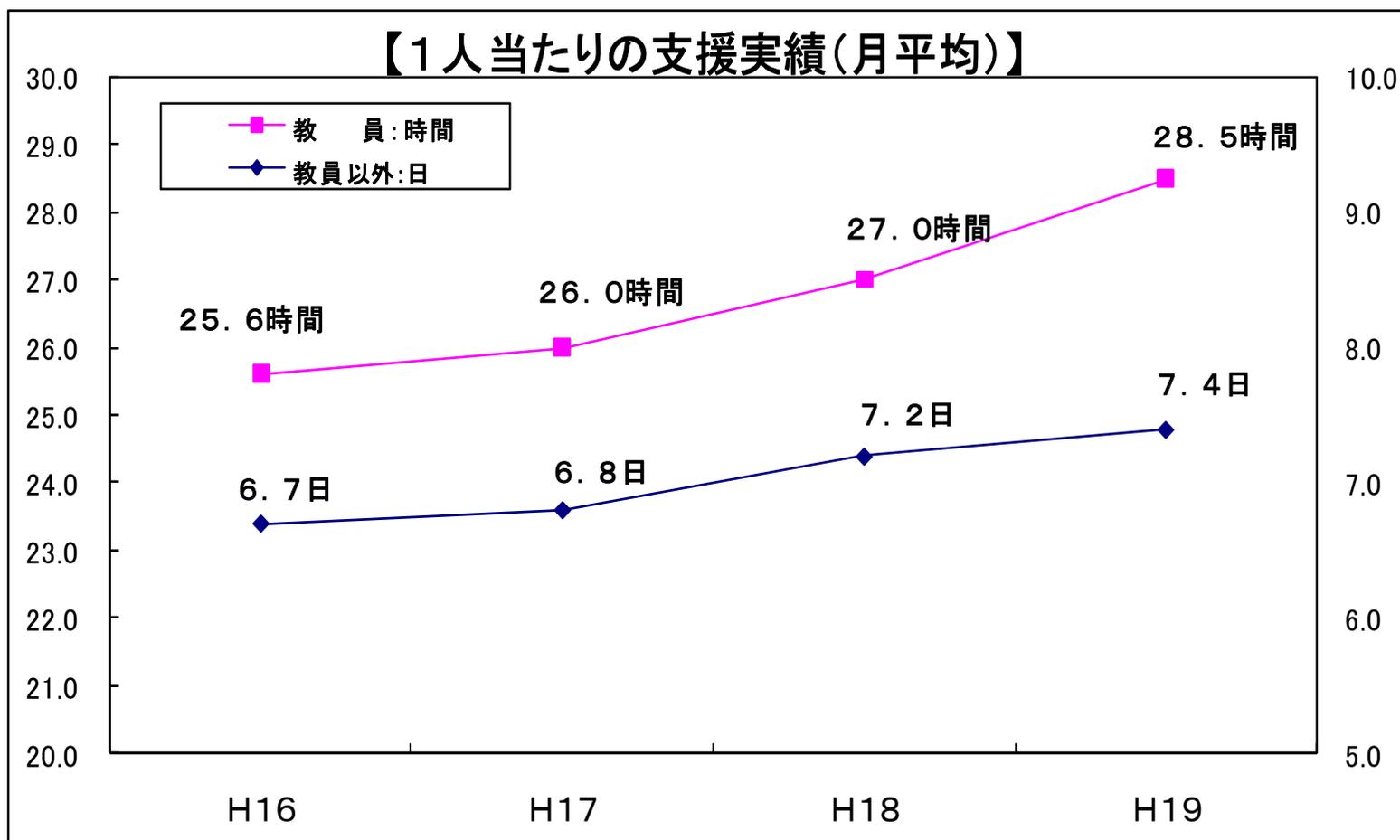
派遣検討結果(合計:実人員)



2 非常勤医師の派遣状況(各年度実績)



2 非常勤医師の派遣状況(各年度実績)



医師消える恐怖

引き揚げ拡大

地域住民の通い慣れた病院から次々と消えていく医師たち。道内三つの大学医学部が各地の病院で進める医師の引き揚げは、地域医療の現場

に深刻な影を落としている。医師の異動時期となる春に向け、医師引き揚げはさらに増える恐れもある。われわれの健康を守る医療体制が、危機に瀕している。

(医療問題取材班)



通院に片道2時間

根室市民

内科の常勤医四人すべ、病院に通うと、往復バスが三月末になくなる。賃は四千八百十円。家族の車で送ってもらっても、片道、時間以上かかると、体に大きな負担となる。

「これから、どの病院に通えばいいのか」。根室市の無職横沢シゲさん(68)は一日、病院入り口でその声を振り絞った。百二十キロ離れた釧路市の病院でも一日、患者から

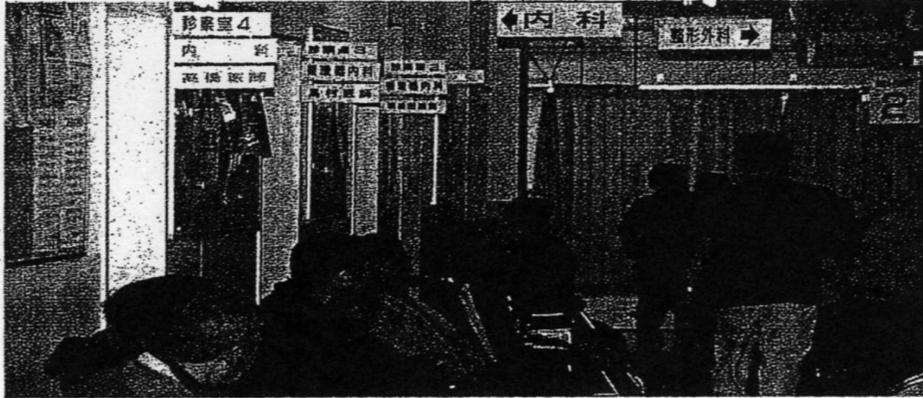
「どうなるのか」と、電話が相次いだ。釧路市内では、年間約二百五十件のお産を担っ

てきた産婦人科開業医が四月末で分院の取り扱いを中止することも明らかになっている。五月からは釧路、根室の両管内でお産を行えるのは、四方所の病院しかない。四方所の病院は、なまなり、地域住民の不安は増していった。

集まらぬ新人医 3道内

「今までも綱渡りの状態でもありしてきましたが、その綱も完全に切れそうなんです」。釧路労災病院から小児科医を引き揚げる北大小児科の有賀正教授は、そう釈明する。

二〇〇四年に導入された臨床研修制度の影響によって進んだ大学病院の人手不足。北大小児科で



4人の内科医師すべてが3月いっぱいまで離れる見通しとなった市立根室病院の待合室11日

卒後臨床研修スケジュール

【 1 年 目】

(基本研修科目)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科						外科			救急／ 麻酔科		
研修期間は6か月とし、最小2か月1単位として2科以上の選択を原則とする。						研修は3か月とする。			研修は3か月とする。		

【 2 年 目】

(必修科目及び選択科目)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
精神科	小児科	産婦人科	地域医療	自由 選択A			自由選択B				
それぞれ1か月以上を原則とする。				基本研修科目、必修科目の補完、又はプライマリ・ケアを主眼においた自由選択。ただし最長1科6か月が原則。							

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科						外科			救急／ 麻酔科		
研修期間は6か月とし、最小2か月1単位として2科以上の選択を原則とする。						研修は3か月とする。			研修は3か月とする。		

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
精神科	小児科	産婦人科					地域医療				
それぞれ1か月以上を原則とする。				出身大学と同じ都道府県内に限る。 2年目内の最低6ヶ月とする。							